

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	遠山簡易水道事業	会計	簡易水道	事業No.	287	施策順No.	45-003
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-2-1-10-2		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	水道課		
施策	45 居住基盤の向上		事業期間	開始	18	終了	24

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	上村、南信濃の市営水道施設を使用しているお客様(市民)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		給水区域内人口(人)		2625			2500	
	意図	上村、南信濃の遠隔監視施設整備及びクリプト対策整備を行い、水道水の安全、安定供給を図る						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	事業進捗率(%) = 事業費(累積) / 総事業費	5	32	70	84	83.4	92	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	予定していた工事、用地取得については完了した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	上村、南信濃地区内の18の既存簡易水道等を1つに統合を図り、クリプト対策のろ過施設整備及び水道施設非常通報施設の整備等。水道事業認可は、上村、南信濃の既存水道施設を「遠山簡易水道」として統合し、19年度末に認可申請。 全体計画 ・事業期間 平成18年度～24年度 ・計画給水人口 上村670人、南信濃1,830人、合計2,500人 ・計画1日最大給水量1,265m ³ /日 整備内容 ・遠隔監視システム ・電気計装設備整備 ・クリプト対策事業		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 クリプト対策施設整備 此田浄水場築造工事 1箇所 能力Q=17m ³ /日 2 遠隔監視設備工事 10箇所 伝送路L=2, 125m 3 十原浄水場用地取得補償及び実施設計	事業進捗率(単年度事業費/総事業費) 単位 %	19
23年度実施計画	1 クリプト対策施設整備 此田浄水場機械電気設備工事 1式 能力Q=8m ³ /日 2 遠隔監視設備工事 2箇所	事業進捗率(単年度事業費/総事業費) 単位 %	8.4

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金		12,500	12,500	5,000	
	県支出金					国庫補助率 簡易水道再編推進事業:1/4 国庫補助残 簡易水道事業債(充当率100%) その他 加入者負担金ほか
	起債		35,600	35,600	14,000	
	その他		1,900	95	189	
	一般財源		5,000	6,285	5,111	
	計(A)		55,000	54,480	24,300	
	正規職員所要時間			2,600		
	臨時職員等所要時間			1,000		
	人件費計(B)			10,373		
	トータルコスト A+B			64,853		

4 事業に対する市民や議会の意見

・H17.12議決の過疎地域自立促進計画の中で、施設整備や維持管理の強化が必要。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。
			居住基盤の満足度 ムトス指標 水道普及率
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り		遠山簡易水道の遠隔監視施設整備及びクリプト対策整備を行い、水道水の安全、安定供給の向上が図れた。
	後期に向けた課題		水源水質の変化により、クリプト対策の必要な施設がある。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り		遠方監視方法の工夫により、異常の早期発見、早期対応を可能にした。
	後期に向けた課題		水道課からの距離が30km以上の地区がほとんどであり、異常時の対応に遅れが出ないよう体制整備が必要。
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り		遠方監視方法の工夫により、異常の早期発見、早期対応を可能にし、定期的な巡回監視頻度が減少したことにより、人件費が抑制された。
	後期に向けた課題		コスト削減のため人件費を抑制してきたが、有事の際の対応する職員が少なく、また、熟練した水道技術者の減少により危機管理体制の強化が課題である。
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り		市民生活に直結する事業であり、水道法第二条及び二条の二で、国及び地方公共団体は水道施設及び整備について、必要な施策を講じ、実施しなければならないと規定されており、適切に関与してきた。
	後期に向けた課題		施設整備から維持管理が主体となっていくが、小規模施設が点在し施設によっては給水対象人口が10人以下となる施設がある。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してみましたか	4年間の振り返り		
	後期に向けた課題		
全体を通じて	4年間の振り返り		遠方監視方法の工夫により、異常の早期発見、早期対応を可能にし、駐在職員の削減ができた。
	後期に向けた課題		職員削減のため、有事の際に対応する職員が少なく、また、熟練した水道技術者の減少により危機管理体制の強化が課題である。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	------------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------